

広島県に発出されている新型コロナ対応の「緊急事態宣言」が6月20日まで延長される見込みです(27日現在)。本校においても分散登校を行うなどの対応を講じていますが、オンライン授業を含め、さらなる取り組みを実施していきます。

いずれにしても、「正しい知識を持って正しく恐れる」ことを徹底していくときであることは間違いありません。

“人とつながる”力とは…

5月25日(火)、広島市立美鈴が丘中学校にお招きいただき、本校の学校説明会を行いました。動画や画像を交えながらの40分近くの説明でしたが、約90名の3年生のみなさんは熱心に耳を傾け、メモを取っていました。そんな姿に接したからでしょうか、自ずと口調が滑らかになっていったように思います。生徒の聞く姿勢に感謝です。

学校説明ということで、本校の紹介は必須です。校訓(建学の精神)「報恩感謝・実践」と教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーを育む」、クラブ活動や日常の様子、施設設備の充実ぶりなどを通して本校が目指すものについて触れるとともに、高等学校と中学校の違いについても説明させていただきました。特に教育目標の説明や教育活動の柱の一つである国際理解教育の説明時、また、大学進学実績についての説明したときは、ある想いを持って次のように話させていただきました。

『「グローバル・イノベーション・リーダー」とは地球的な視野で考え地域社会と協創する人材のことを指します。それは世界の動向を見据えながら価値観の異なる人と共生し、自身が暮らす地域社会に活力をもたらす人のことです。また、変動性や不確実性が強まり続ける現代社会は、“人とつながる”ことに活路を求めているような気がします。なぜなら、協働することで課題解決がなせるからです。一人の力ではどうしても解決できない課題を複数の人と、まして価値観の異なる多くの人と協働すること(=協創)によって課題解決が容易になっていくのです。当然といえば当然のことなのでしょうが、このことが失せかけているから社会の変容が問われているのかもしれない。また、国際理解教育に力を注ぐ理由も“人とつながる”力を身につけていくことの活動の一



端なのです」と。そして、次のように続けました。

「高校を卒業した後、どうして大学や専門学校などの上級学校を目指すのか。それは、経験や人との出会いを経て、“人とつながる”ことを実感し、何をどうしたらいいかというアンテナを拡げていくためです。最終的には、自分なりの幸せのカタチを見出していくためです。だから、自分に適した上級学校を選んで欲しい」と話し、「したがって、本校に来れば・・・」と強調したかったのですが、そこはやや遠慮がちに伝え、「どうぞ、本校で学んでみませんか」と終わりました。

残りの10分間を質問タイムとしましたが、「入学するにはどのぐらいの成績が要るか?」「修学旅行はどこへ行くのか?」「下校の時間は?」など、たくさんの質問をいただきました。

終始前向きな生徒のみなさんを前に、気持ちよく話すことができました。本当にありがとうございました。

ちょっといい話

数日前のことです。生徒の下校時、たまたま居合わせた本校の先生が、通りすがりの年配の女性からある言葉を掛けられたそうです。

道路を挟んでやや遠めにいた数名の生徒が、先生に向かって「先生、さようなら!」とあいさつされたので、「さようならー」と返したそうです。側を通った女性はその様子を見られたなり、「素敵な学校にお勤めなんですね」とお声を掛けられ、その先生は爽快感に満ち溢れたそうです。

そのことを聞いて、ついほっこりしてしまいました。嬉しいです、本当に。こんなことが続いてくればと願うのは、私の心からの想いです。生徒にも女性にも、ありがとうございます。